特定非営利活動法人ＮＰＯサポートちがさき

令和４年度(2022 年度)　事業報告

（令和 4 年 4 月 1 日より令和 5 年 3 月 31 日まで）

1. 市民活動を支援する施設の管理運営事業

内　　容　施設管理及び市民活動推進のための事業、多様な主体による協働の仲介を行った。
日　　時　令和 4 年 4 月 1 日より令和 5 年 3 月 31 日　・通年
場　　所　茅ヶ崎市民活動サポートセンター他
従事者人員　21 名
受益対象者　公益活動団体及び関心のある個人
支 出 額　28,253,339 円

2. コミュニティ形成を支援する事業

(1) まちスポ×さぽちが連携事業

内　　容　NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎と連携を図る。
　　全国まちスポ交流会 in 茅ヶ崎にて、「こどもファンド事業」を発表した。
日　　時　令和 5 年 1 月 22 日（月）、23 日（火）
場　　所　まちづくりスポット茅ヶ崎、平塚市
従事者人員　2 名
受益対象者　茅ヶ崎市南西部地区住民及び一般市民
支 出 額　10,000 円

(2) おでかけ支援事業

内　　容　地域住民がドライバーや添乗員となり「くらしの足を地域で支える」おでかけワゴンは、今年度より湘南地区まちぢから協議会の自主運行となった。まちづくりスポット茅ヶ崎と連携して、国土交通省認定ドライバー研修の企画・運営、保険加入等リスクマネジメント・運転マニュアルの作成の助言、社会福祉法人翔の会所有車両の借用等を仲介。
日　　時　令和 4 年 4 月 1 日より令和 5 年 3 月 31 日・通年
場　　所　まちづくりスポット茅ヶ崎、コミュニティセンター湘南、茅ヶ崎市南西部エリア他
従事者人員　2 名
受益対象者　茅ヶ崎市南西部地区住民及び一般市民
支 出 額　45,500 円

(3)余暇支援ネットワーク

今年度は実施しなかった

3. 協働によるまちづくり推進事業

(1) 企業と NPO のマッチング

内　　容　地域コミュニティが持つ様々な活力、人材が交差することによる新たな次世代への手がかりを

模索し、従来行ってきたヒアリング、意見交換を行った。

日　　時　令和４年４月１日より令和５年３月 31 日　・通年

場　　所　茅ヶ崎市民活動サポートセンター及び茅ヶ崎市内

従事者人員　４名

受益対象者　会員及び一般市民

支 出 額　17,500 円

(2)食から未来へ勉強会

内　　容　国の国策にふれ、地域コミュニティを考える。企業とNPOのマッチングプロジェクトの一環として、みどりの食料システム戦略の分野横断的な取り組みとして開催した。

日　　時　７月 28 日(金) テーマ『みどりの食料システム戦略』

場　　所　茅ヶ崎市民活動サポートセンター及び茅ヶ崎市内

従事者人員　６名

受益対象者　会員及び一般市民

支 出 額　44,459 円

(3) SDGsネットワーク事業

内　　容　・講演:白井宏氏(市福祉政策課職員)

テーマ:茅ヶ崎市の福祉政策を学ぶ～重層的支援体制整備事業を中心に～

・グループワーク

日　　時　令和４年８月 20 日(土) 通年

場　　所　茅ヶ崎市民活動サポートセンター

従事者人員　１名

受益対象者　会員及びSDGsに関心のある市民、行政職員等

支 出 額　729,737 円

４. 市民活動に関する調査研究事業

実施しなかった。

５. こどもの主体的な活動を支援する事業

内　　容　子どもの主体的な活動を支援する「ちがさき・さむかわこどもファンド」を立ち上げこどもの活動をこども審査員が審査して予想を超える８グループに助成。活動の見守り、市役所との調整の場への同席など伴走支援。メディアにも多数掲載された。

日　　時　通年

場　　所　茅ヶ崎市民活動サポートセンター

従事者人員　８名

受益対象者　茅ヶ崎市、寒川町内のこどもたちとその支援者及び市民活動に関心のある市民、

支 出 額　1,392,640 円

6.その他この法人の目的を達成するために必要な事業

今年度は実施しなかった。

1. 茅ヶ崎市民活動サポートセンターの管理運営とこれに付随する事業

総括

2022 年、サポセンは開設 20 周年を迎えた。新型コロナウィルスの影響も徐々に和らぎ対面での事業を復活。20 年の軌跡を振り返りながら、サポセンの周知と市民活動の PR、未来のサポセンを創るきっかけづくりや多様な主体との新たな関係づくりを目指した様々な記念企画を実施した。また、コロナ禍でニーズが高まった市民活動のオンライン活用支援として館内ネット環境を充実させたほか、経年劣化で不具合が生じた建物設備の修繕等、更なる利便性向上にも取り組んだ。

市民活動団体の活動状況も回復傾向にあった。来館者の増加や対面での事業実施で、人と人とが密に接する機会が増えたが、手指消毒や換気の徹底など、スタッフ・来館者が感染症対策に努め、館内での感染はなく安全に運営することができた。年間利用者は 17,302 名（前年度比 137%）。印刷作業に伴う機器類の利用件数や、イベント等に使用する備品の貸出件数など、団体の活動が活発になっていくにつれ利用件数が増加した。ホームページ年間閲覧数は 76,007 件（Google 統計、1カ月間の訪問者総数計）で前年比 110%だった。

市民活動推進のための主催講座やイベントに関しては、オンライン開催から対面開催に戻したことで、リアルな対話や交流を求める人たちの熱気があふれ、コロナ禍で希薄になりがちだった人と人とがリアルにつながることの価値、素晴らしさを改めて強く実感することとなった。多様性が尊重され、誰もが自分の能力を活かして社会参画できる社会、誰一人取り残さない社会の実現のために、「市民が主役のまちづくりの拠点」として、思いを持って活動する人たち同士がつながり、みんなで知恵を出し合って協力していけるよう、今後も出会いと交流の場づくりに力を入れ取り組んでいく。

（1）施設の運営に関する業務

ア ロッカーの使用の承認、取消し等に関する業務、利用料金の徴収、還付に関する業務

事務所を持たない市民活動団体に対して、機材などの備品や書類保管のためにロッカーを貸出した。

54 団体（大:17 団体、小:37 団体）、稼働率 81.8%

イ 作業コーナー・貸出用パソコン・貸出備品の管理運営に関する業務

・作業コーナーに於いては、利用者へ印刷機等の各種機器類に関する使い方サポート、利用料精算・領収書発行ならびに機器類付属部品・消耗品の管理を行った。大量印刷の場合は事前予約を受付けることにより、コロナ以前にあった利用者の時間調整や出直しが減少し、スムースな印刷機運用ができている。また、機器類の調整やトラブル対応に関しては、保守点検業者との速やかな連絡調整により、利便性の維持向上に努めた。

・昨年度に導入したカラー印刷機は、コピー機のような操作の手軽さと、ほぼ実費負担分のみとなる料金設定により前年よりも利用が増加している。外注による印刷製本費の削減や作業時間の短縮、写真等がカラーで見栄えがする等、団体の広報活動の広がりにも貢献できた。

・貸出備品の利用は年間で 308 件、前年の 1.5 倍の利用があった。原則、事前予約を受け備品貸出の際は使い方の指導を行い、貸出・返却時には機器の状態や付属品を確認し、随時貸出用備品のメンテナンスを行った。オンライン会議等の支援のために購入した大型モニタは、館内での会議・打合せ時の資料・動画視聴で利用が増加。

・館内貸出 PC に関しては、利用者から HDD の起動やアプリの動作が鈍いとの声があり、残り1年のリース期間を前倒しにして、新たに SSD 搭載機 PC4 台とレーザープリンタのリース契約を行った。日常のメンテナンス・ソフトのアップデート等を行い、使い慣れない利用者には使い方の指導やトラブル対応などのサポートをした。年間の貸出数は 1,048 件、前年比 132%と利用数も増加。

ウ ロッカー、レターケース利用団体宛のファックス及び郵便物の取り次ぎに関する業務

市民活動団体への郵便物・物資・情報等の仲介をした。109 件。

エ 自主事業の実施業務

センター主催の SDGs カフェの連携事業として、以下のとおり、第1回 SDGs ネットワーク事業を開催した。

開催日	概要	参加人数
8 月 20 日(土)	○講師　白井 宏さん(茅ヶ崎市福祉政策課職員) ○テーマ:茅ヶ崎市の福祉政策を学ぶ～重層的支援体制整備事業を中心に ○プログラム ・白井氏による講演 ・グループワーク(4 つのテーブルに分かれて情報交換) ・全体会(各グループからの話し合い結果の報告、報告内容の共有)	18 名

オ 職員体制に関する業務

・グループウェア「サイボウズ Office」「メールワイズ」、LINE、Zoom 等のオンラインツールを日常的に活用しての情報伝達他、事務所内での文書回覧など、様々な手段でスタッフ間の情報共有、コミュニケーションを図った。

・毎月のスタッフ会議では、引き続き Zoom を活用してできるだけ多くのスタッフが参加できる環境を整え、市からの報告事項や主催事業の進捗状況確認、施設運営の課題等について共有した。

・事業検討会議もほぼ毎月行い、指定管理事業の企画内容について方向づけをした。

・第 3 水曜日(休館日)にはスタッフ勉強会を実施。施設の管理運営における基本方針、考え方を確認しながら様々なテーマで意見交換し、スタッフ全体の意識の向上を図った。開設当時の思いをふりかえり、サポセン運営の考え方や中間支援の役割について再確認した他、20 周年事業や 3 年ぶりの対面開催となったこどたん+プラスの企画・事前準備会議、防火訓練ほか危機管理対応についての学習会、業務改善についての話し合いなど行った。

・新人スタッフに対しては OJT を中心とした研修、その他すべてのスタッフに対し、主催事業(NPO 講座など)や外部研修への積極的な参加を推奨し、個々のスキルアップを図るとともに、研修報告をシェアし互いに学び合った。

開催日	概要(＊はオンライン開催)	参加人数
5 月 11 日(水)	NPOと行政の対話を促進するための基礎講座 2022＊ 第 1 回「改めて NPO と行政の協働の基本を学ぶ」	1 名
5 月 16 日(月)	NPOと行政の対話を促進するための基礎講座 2022＊ 第 2 回「地域の課題解決につながる NPO と行政の協働」	1 名
8 月 20 日(土)	認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき自主事業@サポセン 「みんなで創る共生社会－多様なアクターの連携で、まちを元気に！－」 茅ヶ崎市の福祉政策を学ぶ～重層的支援体制整備事業を中心に～	7 名
9 月 30 日(金)	WAM シンポジウム「地域共生社会の実現に向けた多様な主体による取組-NPO、行政、地域住民、企業による連携の形-」＊	1 名
10 月 27 日(木)	令和 4 年度内閣府基礎研修 「多様な主体間における連携促進のための研修会 第 1 回近年の災害ボランティアをめぐる動き」＊	1 名
11 月 1 日(火)	茅ヶ崎市国際交流協会主催「多文化防災ワークショップ」@いこりあ	2 名
12 月 7 日(水)、 8 日(木)	日本 NPO センター主催「伝えるコツセミナー」＊	1 名
12 月 7 日(水)	はじめてのデジタル広報 SNS 基礎知識・活用法@茅ヶ崎市役所	3 名
12 月 7 日(水)	WAMオンライン学習会「事業継続のための協力の輪の広げ方」＊	1 名
12 月 10 日(火)	認定 NPO 法人イーパーツ主催　デモ＆ディスカッション「業務、まだ自動化してないの！？」＊	1 名

カ その他施設の運営に関する業務

① コロナ対応の利用ルールに基づく施設運営

・打合せスペースや印刷機利用の事前予約を受け付け、「施設予約受付表」を活用して館内が密にならないように人数調整を図りながら来館者対応を行った。また随時対策を見直し、ゆるやかに制限を解除していった。

② デジタル環境の整備

・オンライン会議や PC 利用の普及で利用頻度が高くなった館内ネット環境を充実させるべく館内アクセスポイント 3 ヶ所を増設。無料 Wi-Fi として利用者が使えるように情報提供した。また貸出用 PC やスタッフ用 PC を Windows11 にアップグレードし、利便性の向上を図った。

③ 寄贈物品の利用者への提供

・企業や個人から提供された物品（事務用品、消耗品、カレンダーなど）を館内にて頒布。一部は有料とし、げんき基金への募金とした。

（２）市民活動の支援及び市民活動推進に関する業務

ア 相談業務（利用者からの声、問合せ対応含む）

相談等は随時対応。毎月 1 回（第 2 月曜日）、法人代表理事による特別相談日を設けて対応した。

・コロナの感染状況が落ち着き、ボランティアをしたい、何か活動を始めたいという個人からの問い合わせや相談が増えた。音楽・スポーツなど趣味や健康づくりの活動、仕事の経験やスキルを活かした活動のほか、子どもや高齢者への食の支援、子どもの学習支援、犬猫保護活動等に関心を寄せる人が多かった。直接誰かの役に立ちたいという動機に加え、人と関わりたい、人とつながりたいという思いも背景にあり、一歩踏み出す人たちを後押しした。

・団体からは、新規立ち上げ（特に NPO 法人化や法人格の選択に関する相談）、資金獲得、げんき基金等補助金・助成金申請、活動場所、備品の貸出、事業の方向性や進め方、広報の協力、NPO 法人の事務手続き等の相談があった。複数のケースで、何度も面談やメール等でやりとりしながら団体の伴走支援を行った。

・茅ヶ崎市国際交流協会からの申し入れにより、ウクライナ支援の募金箱を館内に設置した（10/4～31）。

・企業からは、場所の活用や物品の寄付など自社資源の活用に関する相談があった。

・行政各課からの問い合わせでは、関連業務に該当する団体の活動の実態を教えてほしいという内容が多かった。

・その他パソコンサポート、食材や物品の寄付、福祉相談については関連団体・機関への紹介・仲介をした。

＜相談・利用者の声・問合せの内容＞

カテゴリ	利用者の声	問合せ	相 談	計
ア.施設・備品の利用	12 件	47 件	1 件	60 件
イ.サポセン主催事業	15 件	11 件	1 件	27 件
ウ.市の施策（協働推進事業・げんき基金）		4 件	13 件	17 件
エ.ボランティア・市民活動	4 件	36 件	16 件	56 件
オ.団体の運営（法人設立・組織運営）	1 件	4 件	13 件	18 件
カ.団体の運営（活動資金・助成金）	1 件		9 件	10 件
キ.団体の運営（活動場所）	2 件	2 件	2 件	6 件
ク.団体の運営（ボランティア募集・人材確保）		3 件	4 件	7 件
ケ.団体の運営（広報）	3 件	6 件	8 件	17 件
コ.団体の運営（活動内容・事業企画）	2 件	3 件	5 件	10 件
サ.団体の運営（会計・税務・労務）			1 件	1 件
シ.団体の運営（その他）	2 件	5 件	1 件	8 件
ス.地域資源・情報のコーディネート	4 件	5 件	2 件	11 件
セ.行政・企業・大学・他団体等との連携・協働	1 件	5 件	2 件	8 件
ソ.その他	8 件	46 件	8 件	62 件
合 計	**55 件**	**177 件**	**86 件**	**318 件**

＜所属内訳＞

所属区分	利用者の声	問合せ	相　談	計
01 市民活動団体	25 件	43 件	32 件	100 件
02 特非・NPO	9 件	7 件	13 件	29 件
03 公益・非営利法人	2 件	4 件	8 件	14 件
04 行政		14 件	2 件	16 件
05 企業	4 件	11 件	4 件	19 件
06 学校	1 件	1 件	1 件	3 件
07 地縁団体(自治会など)	2 件	6 件	3 件	11 件
08 福祉関連機関		7 件	2 件	9 件
09 その他	2 件	7 件	2 件	11 件
10 個人	10 件	77 件	19 件	106 件
合　計	**55 件**	**177 件**	**86 件**	**318 件**

イ 「IT スキルアップミニ講座」の実施

PC 操作やアプリの使い方、また SNS やオンラインツールに慣れていない市民活動団体のために、対面による IT 支援講座を計6回開催した。

開催日	概要	参加人数
4 月 19 日(火)	**「ZOOM 入門～はじめの一歩」** 内容:ZOOM アプリのインストール、ミーティングに参加、設定方法、コントロールバーの使い方や ZOOM アカウントの作成、ホストのやり方などを解説 講師:大木伊都子さん(NPO 法人パソコンボランティア湘南理事長)	3 名
6 月 28 日(火)	**「Windows10 を Windows11 にアップグレード」** 内容:Windows10 と 11 での変更点箇所の説明、アップグレードの前準備やアップグレード方法、前バージョン(Win10)に戻す方法などを解説 講師:横溝芳明さん(NPO 法人 パソコンボランティア湘南)	10 名
8 月 30 日(火)	**「Word でチラシづくり」** 内容:画像挿入と便利な編集機能について、紙面のレイアウト、透かしデザイン、見出し文字の装飾、画像の挿入と調整効果、見取り図の作成、印刷イメージと保存などを解説 講師:澤本豊治さん(NPO 法人 パソコンボランティア湘南)	11 名
10 月 28 日(火)	**「Photo Scape X 画像編集」** 内容:Photo Scape X 基本操作と便利な機能について、画像編集の基礎、不要なものを消す道具、複数画像を一括リサイズ、Web やチラシの画像素材作り、GIF アニメ、保存・印刷などを解説 講師:大木伊都子さん(NPO 法人パソコンボランティア湘南理事長)	6 名
12 月 6 日(火)	**「パワーポイント活用」** 内容:パワーポイントによる団体 PR 動画制作、スライドマスターで一括編集、オブジェクト素材の挿入、資料印刷の設定などを解説 講師:大木伊都子さん(NPO 法人パソコンボランティア湘南理事長)	9 名
2 月 28 日(火)	**「Excel 活用」** 内容:簡単な表の作成方法、日付の自動記入で予定表など作成、入力データの集計(関数利用)、集計結果を整理・分類する方法、見やすい＆わかり易い報告書作成などを解説 講師:鈴木洋一さん(NPO 法人 パソコンボランティア湘南)	8 名

ウ 「NPO 講座」の実施

市民活動の広報支援として HP 制作、SNS 活用、また、行政との協働推進に向けて、パートナーシップでまちづくりの手法など、対面による NPO 講座を計 4 回(初回は連続講座)開催した。

開催日	概要	参加人数
10 月 22 日(土) 10 月 29 日(土)	**Ⅰ「スマホで運用も簡単！無料アプリでホームページ制作」** 内容:SNS 投稿の経験者を対象に、無料 HP 作成ツール「Jimdo(ジンドゥー)」を使い、各自のスマホ(iPhone/Android)でホームページ制作を目標に講義と実習 1 日目:スマホに無料ツールをインストール～アカウント作成、HP と SNS の持つ役割の違いや、団体独自の HP を持つことの意義・重要性について解説。最後に次回までの宿題(団体 HP の構造/コンテンツ設定/基本情報や画像・ロゴ等の作成)の説明 2 日目:宿題だった HP の構造を団体ごと順番に分析、公開していく掲載情報を厳選する作業。講師指導のもと、各団体理想の HP を目指して積極的に取り組み、作成した HP を全員で閲覧し、今後の継続運用についての質疑や意見交換を実施 講師:四條 邦夫さん(NPO 法人 セカンドワーク協会代表) 村田 久美子さん(NPO 法人 セカンドワーク協会)	3 名
1 月 23 日(月)	**Ⅱ「市民活動団体のための SNS 運用のイロハ」** 内容:多くの団体が Twitter・facebook・LINE・Instagram 等の SNS で情報を発信している。今回は Instagram を例に、効果的な投稿事例を見ながら、投稿の分析ツールの具体的利用法を、受講者がスマホを片手に実践 講師:市川 ヤスヒロさん(株式会社ボンド 代表取締役/デザイナー)	12 名
2 月 18 日(土)	**Ⅲ「パートナーシップでまちづくり～知っておきたい行政のしくみ」** 内容:「行政のしくみや意思決定のプロセス」、「策定中の『茅ヶ崎市実施計画 2025』をもとに、今後、茅ヶ崎市が取り組むテーマ等について」、「協働の手法、進め方のポイント」について解説 講師:熊谷 健太さん(企画経営課) 柿澤 良昭さん・小西 琢郎さん(市民自治推進課) 質疑応答コーディネーター:益永 律子さん(NPO 法人 NPO サポートちがさき)	16 名

エ 「地域の居場所づくり交流会」の実施

地域の居場所づくりに関心のある市民、居場所づくりを支援する立場にある自治体職員・福祉関係者等を対象に、市内外の様々なタイプの居場所の事例を紹介しながら、居場所運営の現状とノウハウ(課題含む)を学ぶ機会を提供した。「茅ヶ崎居場所づくりネットワーク」と情報交換をしながら企画した。

また子育て世代の参加者向けに、保育ボランティアを手配して託児も行った(当日託児 2 名)。

開催日	概要	参加人数
3 月 4 日(土)	**地域の居場所づくり交流会Ⅶ** ・講演テーマ:「本を介した居場所づくり～人と人をつなぐメディアとしての本の可能性～」 ・市内外の3つの居場所事例の報告 ・登壇者によるパネルトーク ・グループワーク ・全体会(参加者と登壇者との対話) ○講師・事例報告者 講師:礒井 純充さん(まちライブラリー提唱者) 事例報告者: 池田 美砂子さん(C の辺り)、大西 裕太さん(話せるシェア本屋とまり木) 芝 匠子さん(ぬくぬく文庫)＜横浜市青葉区＞	31 名

オ 「SDGs カフェ」の実施

多様な分野で活動するゲスト講師をお招きし、SDGs に関わる具体的な活動実践について学びながら、参加者同士の顔の見える関係を築くきっかけづくりの場を提供することを目的に、今年度は対面で開催した。市民活動団体、行政、企業、SDGs に関心のある個人など、グループワークを通して意見交換も行った。

開催日	概要	参加人数
9 月 10 日（土）	**第 4 回「誰もが生き生きと暮らせる地域を創る～ユニバーサルデザインの考え方と実践から～」** ゲスト: ・関根 千佳さん（(株)ユーディット会長兼シニアフェロー、同志社大学大学院客員教授） ・荒井 佑介さん（NPO 法人サンカクシャ代表理事）	19名
12 月 3 日(土)	**第 5 回「障がいのある人とおしゃべりしませんか～津久井やまゆり園事件から 6 年、障がい者は今 ～」** ゲスト: ・上杉 桂子さん（NPO法人湘南ふくしネットワークオンブズマン理事）	37 名
2 月 25 日（土）	**第 6 回「地域の力が集まった「新しい交流の場」創りませんか～休耕田んぼの活用でみんなを笑顔に～」** ゲスト: ・島村 美咲さん（おもちの田んぼの会） ・鈴木 國臣さん（タゲリ米農家）	20 名

カ 「こどたん+(プラス)」の実施

3 年振りの「対面」と「オンライン」の 2 本立てで開催。対面では、サポセンを会場に約 1,300 名が参加。コロナ禍の制限も解かれ外に出る機会が多くなったこともあり多くの家族連れが来館し、25 の体験・飲食ブースにたくさんの笑顔と元気な姿を見ることができた。会場では、新型コロナウィルス感染症対策を講じた上でワークショップやお買い物など、対面ならではの様々な体験を通じて市民活動団体の魅力、ちがさきの魅力を直接伝えることができた。イベントに参加した人たちが、茅ヶ崎をこれからも住み続けられる素敵なまちにするために、自分にも出来ることを考え、新たなチャレンジへのきっかけづくりの場を提供できたと感じられた。

各ブースでは、参加団体が楽しみながら学べるプログラムを企画、運営した。加えて、持続可能な社会を目指す一環として、「サスティナブルアクション」を NPO 法人もったいないジャパンとコラボ企画。「もったいない精神」のもと、必要とする人や場所へ届けられる循環型社会を身近に学ぶ機会を提供できた。

事前広報は、市内公立小学校全児童への配布、市内広報掲示板へのチラシ掲示、参加団体による広報活動、様々なメディア（広報紙、WEB、ラジオ）を通じての広報を行った結果、反響があったと思われる。

サポセン企画では、サポセン開設 20 周年企画展示プロジェクトとして、“あなたが誰かと「つながる」のに、必要なコト・モノ・要素は何ですか？”アンケートを実施。加えて「市民活動パネル展」を同時開催した。

また、茅ケ崎西浜高校、茅ケ崎高校の生徒や高校生・大学生ボランティアが開催前から複数回、サポセンに通いイベントに向けた準備や当日の会場運営で力を発揮してくれた。当日は、受付、窓口、サスティナブルアクションブース、サポセン企画（マイシール、防災かるた、思い出残そうフォトスポット）、オンラインクイズ、工作エリア、臨時駐輪場、記録写真において、高校生から社会人までのボランティアによる多大な協力があった。

キッチンカーや臨時駐輪場・駐車場としての場所を提供してくださった隣接する AGC セイミケミカル(株)など事業者による協力も得ることができた。

オンラインでは、サポセンホームページ上に 2023 年 3 月 6 日(月)～3 月 26 日(日) の期間中、「こどたん+プラス 2023 特設ページ」を公開。動画配信では、28 の市民団体、行政などが参加。また、ゆるっとつながろうアンケートの集計結果を定期的に WEB 上で報告したほか、3/12(日)対面開催の会場案内、参加団体紹介、クイズコーナーのコンテンツも展開した。特設ページ制作協力は(株)ボンドに依頼。

日時	内容	備考
①10 月 14 日(金) ②10 月 15 日(土)	募集要項・参加申込書の公開、配布 ・キックオフ MTG①開催(18:30～19:30/ZOOM 開催) ・キックオフ MTG②開催(10:00～11:00/対面開催)	①:1 団体/2 名、②:6 団体/8 名、その他、別日で 4 団体/4 名が参加

10 月	・参加団体申込み受付(10/14～11/15)	・参加企画について随時相談対応
11 月～1 月	・参加団体との調整	・(株)ボンドと特設ページ詳細打合せ ・チラシ印刷発注
12 月 17 日(土)	・場所調整会議 ※手話通訳付き	13 団体
2 月上旬	・公共施設・市内 19 小学校などへチラシ配布、 ・広報ちがさき 3/1 号、メディアなど掲載 ・参加団体との調整	情報サイト、SNS でも広報を行った
3 月 6 日(月)～ 3 月 26 日(日)	・こどたん+プラス 2023 オンライン開催(特設ページ)公開 〈内容〉 ▹動画配信 ▹ゆるっとつながろうアンケート:1/19～3/12 実施、回答数 277 ▹参加団体紹介 ▹クイズコーナー:2021～2022 年のこどたん・オンラインで提供したクイズ	・2/17(金)よりプレオープン ・動画配信:28 団体参加 (市民活動団体、行政など)
3 月 12 日(日)	・こどたん+プラス 2023　対面開催 〈内容〉 ▹屋外:ソーラークッカー、ネパールの経済的支援、保護犬の啓発活動、福祉作業所の作品展示販売、木工あそび、ボールすくい、木工風車づくり、無線通信、サスティナブルアクション ▹館内:キーホルダー＆ぬり絵、手話、点字、フラダンス、木の恐竜、3Dプリンター見学、サンバ演奏＆ダンス、KEEP LEFT プレート、竹とんぼ、お絵かきリレー、レモン電池科学実験、ラジオドラマ、マイシール、防災かるた、ゆるっとつながろうコーナー ▹ 会場内で”さぽちゃんワードラリー”(ゴールで景品と交換)	18 団体参加、25 ブース出展、 約 1300 名参加

キ 「ユースボランティア茅ヶ崎」の実施

中学生から大学生くらいを対象に、ボランティアのきっかけ作りのプログラムを実施。ボランティア体験から社会の一員としての意識と、参加者個人の成長を促し、地域社会の課題と向き合う市民活動の芽を育むことも目的としている。(社福)茅ヶ崎市社会福祉協議会と共催で、新たな参加者を発掘し活動への関心を広めている。

受入先として高齢者・障がい者・子育て・保育・環境保全・地域安全・社会教育などにかかわる 21 団体が当初参加の意向を示したが、オリエンテーション後感染状況が急拡大し、3 団体が実施直前に受入れを中止した。希望した体験の機会がなくなってしまった学生には、ひとりひとり意向を確認したうえで新たな受入先のコーディネートや相談を受付け、できるだけボランティア体験に参加してもらえるように応じた。このような状況下でも青少年の自主性・創造性を育むボランティアの場を提供できた。

開催日時	概要		参加人数
7 月 8 日(金)18:30-20:00	オリエンテーション 1 日目	場所:市民文化会館	40 名
7 月 9 日(土)15:30-17:00	オリエンテーション 2 日目	場所:市民文化会館	47 名
7 月 9 日(土)18:30-20:00	オリエンテーション 2 日目	場所:市民文化会館	42 名
7 月 10 日(日)～13 日(水)	個別オリエンテーション 場所:サポセン、社会福祉協議会		25 名
7 月 21 日(木)～9 月 10 日(土)	ボランティア体験期間		154 名
8 月 23 日(火)14:00-16:00	シェア de ボランティア　場所:市民文化会館		13 名

昨年はコロナの影響で対面で実施できなかった「シェア de ボランティア」を今年は対面で開催できた。体験を終えた学生が集まり、体験をふりかえり、みんなで意見を共有した。

ク 若者ボランティア支援に関する業務

若い世代のボランティア活動希望者に対し、ひとりひとりの思いを丁寧に引出し実際の活動へとつなげた。(延べ活動人数:計 131 名)

毎月高校の部活単位で受け入れ、中学の頃から受験期以外、ユースボランティアでサポセンでの活動がきっかけで、あるいはその友人など様々であるが、その後の「こどたん+2023」への呼び掛けに応じた。社会人になっているワカモノなど、単発に加えて多くの継続的なボランティア意識をみることができた。

(ア)ボランティア活動相談、個別オリエンテーション、活動先コーディネート(延べ 3 名)

夏休み期間～9 月:中学生 1 名(鶴が台中学)、高校生2名(鎌倉女子大学高等部、茅ケ崎西浜高校)

(イ)高校の部活動月1回活動受入(延べ 58 名)

・茅ケ崎高校ボランティア同好会 5/23:7 名、10/24:7 名、10/31:8名、11/21:6 名、1/12:9名、2/9:7名

・茅ケ崎西浜高校 JRC 部 5/23:3 名、6/20:2 名、11/10:4 名、12/15:1名、1/23:2名、2/20:2名

(ウ)個人のボランティア・インターン等の活動受入(延べ 2 名)

2/24:1名(大船高校)、2/26:1名(大船高校)

(エ)ユースボランティアの活動受入(延べ 13 名)

7/25(大船高校)、7/26(西浜高校)、7/27(浜須賀中)、7/28(西浜高校)、7/30(茅ケ崎高校)、8/8(日本女子大学)、8/9(日大藤沢高校)、8/10(自修館中学)、8/12(鎌倉女子大)、8/15(茅ケ崎高校)、8/16(日大藤沢高校)、8/24(聖セシリア高校)、8/25(聖セシリア高校)

(オ)サポセン主催事業でボランティア受入(延べ 54 名)

a ユースボランティアオリエンテーション準備・受付・片付け(延べ 39 名)

①7/8:14 名、②7/8:14 名、③7/9:11 名(茅ケ崎高校ボランティア同好会、茅ケ崎西浜高校 JRC 部、鶴嶺高校 JRC 部、湘南アレセイア中学・高校ドルカス、個人大学生)

b こどたん+2023:(延べ 16 名)

3/9:8 名(茅ケ崎高校)

3/12:6 名(茅ケ崎高校、茅ケ崎西浜高校、茅ケ崎北陵高校、大船高校、鎌倉高校、社会人)

ケ 「ボランティア塾 in 鶴嶺高校」の実施

県立鶴嶺高校 1 年生対象、「探究の学習」の授業支援として、高校と連絡調整を行いながら企画、実施した(講師派遣、仲介を行った)。課題を見つけ自主的に活動を行う人との出会いやふれあいの中で、高校生が社会課題を身近なものとして知ることをめざし、生徒がボランティアや進路について、「いつもとは違う」角度から考える貴重な機会となった。

第一部は高校生と年代が近い若者二人をゲストに迎えることで、高校生が自分事として捉えやすい講座内容とした。第二部は3年ぶりに実施、各団体がそれぞれの企画で授業を行った。初めて参加の団体にはヒアリングを行い、すべての団体の「授業内容」を、高校生が読んでわかりやすく、その授業を受けてみたいと思わせるようにアドバイスした。

実施後は、生徒からのふりかえりをとり纏めるとともに、サポセンに於いて参加団体のふりかえり交流会を開催。多くの団体が参加できるよう、2 回に分けて実施した。第 1 回 11 月 20 日(日)6 団体、第 2 回11月 23 日(祝・水)7 団体、計 13 団体。うち 1 団体は ZOOM での参加、第 2 回は手話通訳付きで行った。次年度につながる前向きな発言を促したところ、授業の進め方や生徒への接し方などについて各団体から活発な感想・質問が出され、互いに学びあう貴重な機会となった。

開催日	概要	参加人数
9 月 29 日(木)	「ボランティア塾 in 鶴嶺高校 2023」 第一部　講演「気がついたらアクティビスト」 場所:鶴嶺高校体育館 ゲスト:BENIRINGO 現在の活動(フリーペーパーや Instagram で環境問題について発信)や伝えたいことについてのお話:続けることで、肩書が勝手についてくる 第二部　分科会　場所:同校各教室・体育館 生徒が希望団体の講義・ワークショップを体験。各団体は活動への思いなどを伝えた。(市民活動団体 15 団体)	400 名

コ　茅ヶ崎市市民活動推進基金「げんき基金」補助制度に関する業務

(ア)制度や実施事業の周知啓発支援

・ニューズレターへの関連記事(制度変更、採択事業)掲載、市広報紙「市民の活動だより」への団体紹介記事の掲載仲介を行った。

・緑のカーテンで収穫したゴーヤ、企業等から提供を受けた消耗品や事務用品を窓口にて頒布し、代金全額をげんき基金へ寄付した。

(イ)市民活動団体等への支援

a　令和 3 年度実施 げんき基金補助事業 実施報告会　5/22(土)オンライン

職員 3 名が傍聴した。

b　令和 4 年度事業の実施団体(スタート支援 1 団体、ステップアップ支援 8 団体)への支援

・市主催の「進め方説明会」(はじめてげんき基金申請をする 4 団体対象、4 月実施)にて、広報、地域メディアの活用、事業の進め方ポイントについて個別にアドバイスを行った。

・団体の実施事業等への参加、広報の協力、備品の貸出、進め方アドバイス、その他随時必要な支援を行った。

・市主催「報告書作成会」(すべての団体対象)にて、報告書のまとめ方、効果的な書き方について個別にアドバイスを行った。

c　令和 5 年事業申請希望団体への支援

・市主催「制度説明会(12/9(金)オンライン)」への参加

・「伝わる！企画書作成会(個別申請相談)」の実施

市民自治推進課と連携して、対面、メール等で事業や予算の組み立て方について個別アドバイスを行った。

・令和 5 年度実施 市民活動げんき基金補助事業 公開ヒアリング/プレゼンテーション　3/18(土)茅ヶ崎市役所

職員 3 名が傍聴した。

(3) 協働の推進に関する業務

ア　協働に向けた SDGs学習会(テーマ別情報交換会)

市民自治推進課、企画経営課、関係各課、サポセンの 4 者が参加する学習会の開催に向けて、市民自治推進課との打ち合わせ、及び、企画経営課を含めた情報交換会を開催した。

開催日	概要	参加者
10 月 13 日(木)	「市民活動団体アンケート調査結果(サポセン」、「庁内向けアンケート調査結果(市民自治推進課)」の共有 場所:ちがさき市民活動サポートセンター	市民自治推進課 3 名、サポセン6名
12 月 8 日(木)	「協働推進」に関する意見交換 場所:ちがさき市民活動サポートセンター	市民自治推進課 2 名、サポセン 7 名

イ 関係機関との情報交換

多様なセクター間の連携・協働の推進に向けて、行政、経済団体、福祉機関、市民活動団体、大学との情報交換を実施した。

日時	機関・団体	内容
4 月 12 日(火)	茅ヶ崎市商工会議所	情報交換
4 月 13 日 (水)	茅ヶ崎市観光協会	情報交換
4 月 25 日 (月)	市福祉政策課	サポセン紹介、今後の連携の可能性について
5 月 26 日(木)	市福祉政策課	重層的支援体制整備事業の現状に関する情報交換
10 月 10 日(月)	松浪地区地域包括支援センターさざなみ	趣味の冊子の現状、公民館との事業連携に関わる情報交換
1 月 19 日(木)	にほんごネット	茅ヶ崎市「やさしい日本語」講座の状況に関する情報交換
2 月 2 日(木)	企画経営課、市民自治推進課	「(仮称)公民連携推進デスク、(仮称)公民連携プラットフォームの立ち上げ」に関する情報交換

ウ 市職員への研修、研修受け入れ

新採用職員研修講座「行政とNPOとの協働、サポセン紹介」(50 分)を実施した。

4/7(木):40 名、10/5(水):23 名　場所:茅ヶ崎市役所本庁舎会議室

(4) 情報収集及び発信等に関する業務

ア WEB サイトに関する業務

(ア)ホームページの作成、管理運営、情報発信

サポセンの情報発信で公式サイトとなる HP は、(株)ボンドに、ホームページおよびサーバーの保守管理のほか、毎月 1 回のサイト運用サポートおよび WEB コンサルタントを外注。スタッフでは担えないコンテンツの構成・設計や、レイアウト変更など専門スキルを要する部分での協力を得て、互いに連携を取りながらサイト運営を行った。

前年から引き続き、サポセン主催事業のお知らせ、市民活動に役立つ助成・補助金情報や、行政のお知らせ、その他各種講演会等、コロナ禍での施設利用に関するお願いを適時掲載。主催事業では参加者募集のバナー表示をするなど積極的に広報を行い、事業終了後は速やかに開催報告を掲載するよう努めた。本年度は、イベント情報 394 件、助成金・団体支援情報 162 件、サポセン事業告知・報告件を掲載した。

(イ)SNS(facebook、Twitter、Instagram、YouTube 等)による情報収集・発信

Facebook では、主にサポセン主催事業、館内や花壇の様子、行政からのお知らせや登録団体主催イベントなどを、担当スタッフが情報発信・シェア。また Twitter では、若者向けのイベントやボランティア情報などを中心に市民活動のきっかけにつながる情報を提供。また Instagram では PR 画像・動画を作成し若い世代に向けての情報発信を強化した。本年度の「こどたん+2023」では団体の YouTube 動画を会場のモニターで情報発信した。

さまざまな SNS を利活用して、市民活動やボランティア等の活動に関心のある人たちへ、多様な主体とつながるキッカケづくりとなる情報収集・提供を行った。

2023 年 4 月時点の facebook「茅ヶ崎サポセン」フォロワーは 1,119、Twitter フォロワー410、Instagram フォロワー146 と増加している。また facebook グループ「ちがさき市民応援団」も 167 で微増し、参加する団体は各自イベント情報を発信しつつ交流を深めている。

イ ニューズレター（サポートセンター情報紙）の発行

「ニューズレター」を年 6 回（各号 1,500 部）発行。館内や市内公共施設への配架、ホームページに掲載の他、データベース登録市民活動団体・近隣自治体のボランタリー支援施設・市内協力団体・個人・企業へ配布。

Vol.82(5 月)より紙質を再生紙の茶系より白系に変え、文字や写真、イラストが綺麗に印刷されることで見やすさ、読みやすさを出した。来館者や事業参加者に配布し、サポセンの取組みを紹介する資料としても活用した。

巻	発行月	内容
vol.82	5 月	市民活動の IT 支援～スキルアップミニ講座告知、2022 年度イベント・プログラムスケジュール、特集（市民活動団体ガイドブック）、令和 4 年度実施市民活動げんき基金補助事業9事業決定、団体紹介(さぽちゃんが行く：湘南 SHOW 点)、お知らせ（サポセンの出入口での一時停止、ユースボランティア茅ヶ崎 2022 募集、パソボラ湘南 IT 支援、広報ちがさき「市民の活動だより」）
vol.83	7 月	新たな利用ルールについて（予約なしで利用可）、9.10 月主催イベント告知、特集（2022 市民活動団体アンケート集計結果）、団体紹介(さぽちゃんが行く:ほのぼのビーチ茅ヶ崎)、お知らせ（市民活動の IT 支援～スキルアップミニ講座、省エネについて、個人情報の取り扱いにご注意、パソボラ湘南 IT 支援、広報ちがさき「市民の活動だより」）
vol.84	9 月	こどたん＋プラス 2023 告知、12 月主催イベント告知、事業報告(ユースボランティア茅ヶ崎 2022、若者ボランティア支援、第 4 回 SDGsカフェ)、特集（市民活動のおまつり/交流イベント ヒストリー）、団体紹介(さぽちゃんが行く:一般社団法人 茅ヶ崎市観光協会)、お知らせ（市民活動の IT 支援～スキルアップミニ講座、Web版 市民活動団体ガイドブック 2022 年度版、「市民活動げんき基金」へ寄附、パソボラ湘南 IT支援、広報ちがさき「市民の活動だより」）
vol.85	11 月	令和 5 年度実施「市民活動げんき基金補助事業」募集、12 月～3 月主催イベント告知、事業報告(ボランティア塾 in 鶴嶺高校、NPO講座)、こどたん+プラス 2023 告知、貸出備品について、団体紹介（さぽちゃんが行く:特定非営利活動法人 もったいないジャパン)、お知らせ(市民活動の IT 支援～スキルアップミニ講座、パソボラ湘南 IT 支援、サポセン Twitter で情報発信、ウクライナ支援募金報告、広報ちがさき「市民の活動だより」）
vol.86	1 月	2・3 月主催イベント告知、特集（「市民活動交流カフェ」をふりかえる、事業報告（第 5 回 SDGs カフェ、NPO 講座）、こどたん＋プラス 2023News、寄贈品の紹介、団体紹介(さぽちゃんが行く:ともだちの家)、お知らせ（市民活動の IT 支援～スキルアップミニ講座、パソボラ湘南 IT 支援、貸出ノートパソコンリニューアル、令和 5 年度実施市民活動げんき基金補助事業「公開ヒアリング・プレゼンテーション」開催、広報ちがさき「市民の活動だより」）
vol.87	3 月	新たな利用ルールについて(予約なし、マスク着用は個人判断、飲食 OK)、事業報告(NPO 講座、第 6 回 SDGs カフェ、地域の居場所づくり交流会Ⅶ@茅ヶ崎、こどたん+プラス 2023)、団体紹介(さぽちゃんが行く:ピースカフェ・ちがさき)、お知らせ（市民活動団体データベースへの登録について、貸出ロッカー利用者募集、パソボラ湘南 IT 支援、春の市民まつり出店、広報ちがさき「市民の活動だより」）

ウ 市民活動団体データベースの作成、管理に関する業務

・月次の施設利用統計にて、登録団体・新規登録団体・取消団体・ガイドブック(WEB)掲載団体の数値を報告。
年間で新規登録 16 団体、取消 12 団体、施設設備利用団体を含む登録総数は 364 団体。

・データベース登録 321 団体へ情報の更新案内を 5 月下旬に送付、団体情報の更新作業を行った。

・レターケース利用のみの 45 団体には、別途メール・電話にて継続利用の意思確認を行った。
（ロッカー利用の団体は、前年度 3 月末までに新規・継続利用の意思確認・使用料徴収済み）

・登録取消届の提出団体に関しては、会員の高齢化や長引くコロナの影響もあり、活動休止・解散の他にも代表の体調不良や逝去等、様々な事情が見受けられた。

・年間を通じて、新規登録・団体情報の変更を随時受け付け、データベース情報およびガイドブック掲載情報の更新を行い、最新の団体情報を市民へ提供できるよう努めた。

エ 市民活動団体ガイドブックの編集、発行

市民活動団体データベース登録団体の情報をもとに、サポセン HP「市民活動団体ガイドブック」ページに掲載を希望する 315 団体の掲載情報を公開。また、オンライン環境がない等で WEB 版ガイドブックの閲覧ができない人向けに、公開されている団体情報を印刷して綴ったファイリング版ガイドブックを作成し、市役所 1 階情報コーナーおよび 4 階市民自治推進課、サポートセンターに設置することで、誰でも団体情報を自由に閲覧できるよう努めた。

オ　広報ちがさき「市民の活動だより」への掲載仲介

広報ちがさき 1 日号「市民の活動だより」へデータベース登録団体より通算 11 団体を掲載。
（3 月はサポセン事業「こどたん＋2023」を掲載）

カ　サポセン・市民活動 PR に関する業務

（ア）施設の周知に関する業務

・主催事業やお知らせについて館内掲示や WEB での広報を行った。
・サポセン利用案内（パンフレット）改訂版を 2,000 部発行し、来館者や主催事業実施時に参加者に配付した。
（印刷や備品借用の料金表は別刷りにして挟み込み）

（イ）市民活動の PR に関する業務

・ニューズレター発行時に、主催事業案内等も含め、データベース登録団体他、公共施設、関連機関へ郵送、手渡し、E メール等により情報提供した。
・地域情報紙や WEB イベントサイトへ市民活動団体やサポセンのイベント等について情報提供した。
・開設 20 周年事業の一環で、館内や市役所本庁者にて「市民活動パネル展」を開催し PR した。

キ　図書・情報（掲示物）コーナーの設置と管理運営に関する業務

（ア）市民活動に関する図書の選定と購入、掲示、貸出、管理

・図書コーナー（本棚）脇に「新着図書紹介コーナー」を設け、年 2 回、オススメ本のポップを作成して利用者がに手に取りやすいように工夫した。
・令和 4 年度新規購入図書：『協力のテクノロジー～関係者の相利をはかるマネジメント～』松原明・大社充著ほか 23 冊、定期購入雑誌：『ソトコト』（株式会社ソトコト・プラネット）、『ガバナンス』（ぎょうせい）、『ウォロ』（大阪ボランティア協会）、『ビッグイシュー』（有限会社ビッグイシュー日本）

（イ）市民活動団体、関係機関が発行する掲示物の受付、掲示、管理

・データベース登録団体の会報やリーフレット、イベント開催チラシをメインに掲示。市民活動に関するイベントや運営に役立つ講座案内、各種ボランティア講座・募集情報、資金面での支援につながる助成金情報などを整理して見やすく掲示した。（登録団体のイベント開催チラシは、チラシ全面が見える平机に掲示）
・団体情報の収集・提供では、分野ごとの「市民活動団体メモリーファイル」に登録団体のメディア掲載や会報・チラシなどを整理保管し、団体の活動履歴などが把握できるよう努めた。掲示物が多い団体は個別ファイルを、少ない団体は分野ごとの纏めファイルで掲示している。
・広報ちがさきはじめ市主催のイベントやお知らせ、市民公募、パブリックコメント他刊行物、公共施設や他地区支援センターの広報紙やイベントチラシ等も、来館者が手に取りやすいようにコーナーを作り、掲示用ラックを活用して掲示・配架した。神奈川新聞やタウンニュース等の地域紙に掲載された、市民活動や市に関する記事は、曜日ごとにスクラップして来館者に見やすく掲示し、掲示後はファイリングしている。
・開催日程が間近なイベントなど、注目してほしい情報へのアクセスを、来館者視点で検討・工夫して情報の掲示を行った。

ク　市民活動の状況調査に関する業務

（ア）市民活動団体へのアンケート調査

データベース登録更新時に Google フォーム及び紙面で「市民活動に関するアンケート 2022」を実施し、ニューズレターVol.83 の特集で集計結果を報告した。調査対象：データベース登録団体（322 団体）、 実施時期：2022 年 5 月 25 日～6 月 30 日、回収率：194 団体（法人 34、任意団体 160）（回答率 60%）

(イ)市民活動団体へのヒアリング調査

健康増進課からの問合せに応じて、高齢者対象に健康づくり活動をしている団体の活動状況を調査した。

(ウ)「利用者懇談会」の実施

各事業における団体との懇談、20 周年記念事業「つながりアンケート」を通した利用者との懇談等を実施した。

（５）危機管理に関する業務

ア 感染症対策(新型コロナウイルス感染症拡大防止関係)

コロナ禍も 3 年目に突入した 2022 年。年明け早々、これまでをはるかに上回る感染の波が押し寄せた。第 6 波では 2 月 3 日に全国で初めて 10 万人を突破。この時点での過去最多を更新した。6 月になると、感染状況はやや落ち着きを見せたが、7 月に再び爆発的な感染が始まった。7 月 23 日に全国で 20 万人を突破すると、8 月 19 日には 26 万 943 人の感染が確認され、過去最多を更新した。第7波は、これまでの流行波を上回る規模で感染(新規陽性者数)が拡大した。その後、新型コロナウイルスのオミクロン株による第8波(オミクロン株 BA.5 2022 年 11 月 30 日～2023 年 2 月 20 日(83 日間))の流行では、第7波よりも報告される感染者数の最大値は低下(2022 年 12 月 27 日 2万 2063 人が最多)。年が明け、感染状況に改善の兆しが見え始めたこと、また、政府対策本部がマスク着用の考え方の見直し(3 月 13 日から適用)が決定されたことなどを踏まえて、サポセンでは 3 月 13 日からマスク着用の考え方や共有物の消毒など感染予防対策を大きく変更した。

新型コロナウイルス感染状況および政府や業界団体などから発表される情報の変化に応じ、サポセンにおける感染対策を徐々に簡易化し、利用者の不便さを極力取り除くべく努力した上で、基本的な感染予防策(手洗い・手指のアルコール消毒、マスクの適切な着用、そして、窓開け・換気扇による換気など)を励行した。そのため、適時、サポセン職員の啓発およびサポセン利用者への注意喚起につとめた。

新型コロナウイルスの感染性や病原性は弱まったわけではなく、感染予防対策の必要性に変わりはなく、次年度も、サポセン職員はもちろんのこと、サポセン利用者にも、新たなマスク着用ルール、手指の手洗い・消毒、換気について適切な対応に協力いただきながら、来年度も引き続き基本的なコロナウイルス感染予防対策を徹底していく。

今年度の主な活動は以下のとおり。サポセン館内でのコロナ感染者の発生は昨年度に続き今年度もなかった。

時期	内容
2022 年 5 月 9 日(月)	・換気のための窓開け幅(常時開)、冬仕様5㎝から夏仕様 10 ㎝に変更 ※冬場は外気温と室温の差(比重の差)が夏場より大きいため、夏場 10cm(最小)の開け幅は 5cm(最小)で十分換気可能。5 月になり気温が上がってきたため、窓開け幅を夏仕様(10cm)に変更。
5 月下旬～ 6月 21 日(火)	・サポセンの感染症対策の見直し 5 月 23 日の政府の新型コロナ対策の「基本的対処方針」改訂を受け、サポセンの感染症対策を見直す。長期化してきたコロナ禍において徹底すべき感染予防対策に集中するためには、不要な対策は削ぎ落としていくことが必要と判断し、感染対策の変更事項を検討。主な変更点は以下の通り。 ・机・イス等の施設設備の消毒は、朝、開館前に 1 回実施。 ・入館時の手指アルコール消毒・マスク着用は継続。 ・しばらく、人数・時間制限をなくし、「予約不要」を試行。ただし、「予約も可能」とする(印刷機、フリースペース共)。 ・飲食の再開については、当面見合わせ。
7 月 28 日(木)	・「第 7 波」以降のコロナ感染対策について検討 感染経路としてエアロゾル感染が主流といわれる感染力が強い「BA.5」「BA.2.75」の場合の感染予防策として、MASK(M は適切なマスク着用、A はアルコール消毒と手洗い、S は遮へいとショートタイム、K は距離と換気(冬はこれに加え、加湿)のうち、M 適切なマスク着用、A アルコール消毒と手洗い、K 換気)と認識し、①入館・退館ともに手指アルコール消毒および②換気扇の換気量の増減(強・弱)の調整、③窓の常時開(夏季 10 ㎝幅、冬季 5 ㎝幅)の励行、④二酸化炭素 CO2 濃度のチェックをスタッフに徹底

11 月 1 日(火)	・換気のための窓開け幅(常時)を、夏仕様(10cm)から冬仕様(5cm)に変更
11 月 17 日(木)～	・「第 8 波」が近づく(茅ヶ崎の感染者数が 3 桁前後に増加) に伴い、サポセン内に基本的な感染予防策(手洗い・手指のアルコール消毒、マスクの適切な着用、窓開け・換気扇による換気など)の徹底の注意喚起を行う。
12 月 26 日(月)	・政府方針の推移や感染状況および新たなエビデンス等を踏まえ、新型コロナウイルス感染拡大抑止に配慮しつつ、市民活動の充実に重点をおいた「ちがさき市民活動サポートセンター(サポセン)」の運営ができるように新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(管理者用)を簡素化(サポセンにおける「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(管理者用)2022 年 12 月版」)
2023 年 1 月 25 日(水)～	・利用者に記入していただいている『新型コロナウイルス感染症防止対策のための施設利用チェックシート』を簡略化
2 月 22 日(水) (3 月 13 日(月)以降、実施)	・2 月 10 日の政府新型コロナウイルス感染症対策本部決定「マスク着用の考え方の見直し等について」及び「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の見直しに伴い、サポセンの新型コロナウイルス感染症対策(館内の運用・施設管理)について見直す。主な変更点は以下の通り。 利用者のマスク着用について(変更あり) マスクの着用は「個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねること(本人の意思に反してマスクの着脱をしいることがないよう)」になることを考慮し、利用者へのマスク着用の協力依頼は行わない。 共用物などの消毒について(変更あり) 入退館時にアルコール消毒などの手指衛生が遵守されていれば、サポセンにおいては接触感染のリスクは高くないとし、2023 年 3 月 13 日以降は共用物のアルコール消毒は「パソコン(キーボード、マウス等)、パソコン机・イス、印刷機・コピー機、鉛筆など文房具等の共用の物品の利用後毎のアルコール消毒を行わない」「コイントレーによる金銭の受け渡しは行わない」に変更。 利用者の飲食について(変更あり) 飲食を行う施設を有する場合、「食事中以外のマスク着用の推奨」については、必須項目から削除(政府方針)されることを考慮し、感染対策(座席間隔の確保、手指消毒の徹底、換気の徹底)をしたうえでの飲食は可とする。ただし、給湯室にある共用の食器類については、使用(貸し出し)不可を継続する。 対人距離(変更あり) 従来求められていた対人距離は 1m 程度(可能なら 2m)だが、政府が示した『令和5年3月3日改訂版ガイドライン』では対人距離の確保を具体的には求められていないが、サポセンでは高齢者などいろいろな方が利用されることを考慮し「対人距離は、肩と肩が触れ合わない距離とする」を目安とする。 換気や職員の対応について(従来通り)

イ 防火管理、防災管理、建物管理

防火管理、防災管理、建物管理などについて以下の内容を実施した。

実施日	内容	備考
4 月 1 日(金)	防災管理チェック表 2022 版作成	
4 月 8 日(金)	消防計画別表4に基づく自主検査	
4 月 14 日(木)	119 番通報マニュアル確認	
4 月 14 日(木)	緊急連絡網確認	
5 月 10 日(火)	消防計画別表5に基づく自主点検	
5 月 18 日(水)	空調機器保守点検(淡島空調㈱)	
7 月 11 日(月)	自動ドア保守点検(昭和ドア販売㈱)	
7 月 11 日(月)	消防用設備保守点検(平和防災㈱)	
10 月1日(土)	消防計画別表4に基づく自主検査	
9 月 29 日(木)	第 1 回訓練実施計画書提出(市消防本部予防課)	
10 月 6 日(木)	第 2 回訓練実施計画書提出(予防課)	

10 月1～31 日	第 1 回消防総合訓練（オンライン）実施	参加 12 名
11 月1日(火)	消防計画別表5に基づく自主点検	
11 月 16 日（水）	空調機器保守点検（淡島空調㈱）	
11 月 16 日（水）	第 1 回訓練実施結果報告書提出（予防課）	
11 月 16 日（水）	第 2 回消防総合訓練実施	参加 13 名
12 月 13 日（火）	第 2 回訓練実施結果報告書提出（予防課）	
12 月 15 日(木)	自動ドア保守点検（昭和ドア販売㈱）	
1 月 17 日（火）	消防用設備保守点検（平和防災㈱）	
1月～2月	防災倉庫内の防災用備蓄等物品の整理整頓	

（６） 施設の維持管理に関する業務

ア 建物設備

・保守管理業務においては、毎月の 17 項目にわたる月初点検の他、5月及び 11 月には建物維持管理点検を行い、市へ報告した。

・小規模修繕業務としては、上記点検でも確認されたフェンスの支柱のぐらつきの補修（11 月）の他、駐車場の区画ロープの張替え（6 月）を専門業者に委託して行った。

・施設の安全性や利用者の快適性確保のため、敷地出入口への交通安全標識の作成・設置（4月）、劣化・故障が見られたプレイルーム出入口の木枠及び雑誌書棚の補修（6月）などの他、劣化・故障したブラインド4か所（5 月、3月）の交換を専門業者に委託して行った。

・保守定期点検業務においては、例年どおり消防設備、空調設備、自動ドアについて専門業者に委託して、年間を通して保守点検を行った。なお、市の負担で、プレイルームの床の改良工事、雨水排水設備の清掃、館内の電灯9か所の不具合による LED 化工事（以上3月）を行った。

・清掃に関しては、例年どおり障がい者支援の事業所への委託等により日常清掃及び定期清掃を行った。

・保守警備業務においては、例年どおり専門業者に委託してシステムによる警備を行った。

・産業廃棄物（蛍光管、金属類及びプラスチック類等）は、年度末にまとめて専門業者に委託して適正に処理した。

・市からの依頼により、施設のバリアフリー状況を調査し、回答票を作成し、提出した（1月）。

イ 植栽

・季節ごとの花苗植え替えや植木剪定、除草など、ボランティア「さくら草の会」の協力も得て、サポートセンターの花壇やプランターの植栽の管理を行なった。

・夏季にはプランターにゴーヤの苗を植えて緑のカーテンに仕立て、収穫したゴーヤなどは来館者と分け合い、代金 35,051 円はげんき基金に寄付した。

（７） 経営管理に関する業務

・事業計画書と収支予算書、事業報告書と収支決算書を作成し、市に報告した。

・月初めに館内の利用状況をグラフにして掲示した。

・月間利用統計表、月ごとの業務報告書、事業スケジュールの進捗状況一覧、利用者の声・問合せ・相談内容一覧を作成し、市民自治推進課に報告した。また、月 1 回定期連絡会を実施し、情報共有に努めた。

（８）その他の業務

ア 環境配慮

茅ヶ崎市環境基本計画の趣旨に基づき以下の取り組みを行った。

(ア)エコな取り組み推進

省エネルギーでは、「太陽光発電」「キャノッピースイッチによる消灯」「待機電力の削減」「緑のカーテン」「適切な館内温度の管理」「雨水有効活用」「自動販売機不設置」を実施中。また省資源・廃棄物等の削減（3R リデュース・リソース・リサイクルの実践）では、「古紙使用や廃棄物リサイクル」「使用済みペットボトルキャップやインクカートリッジ回収」「主催事業時のゴミ発生抑制」また「産廃持込み処分」を実施中。

(イ) NPO 法人ちがさき自然エネルギーネットワーク（REN）所有設備に関すること（太陽光発電、蓄電池）

太陽光発電の発電・売電の集計や電気使用量の記録など、定期的に REN との連絡調整を行っている。今年度 REN に支払った自家消費分は 205,106 円。

イ 視察対応、他機関との連携に関する業務

市内関連機関、他市ボランタリー活動支援施設等とは、定期打合せや会議等への参加を通して密に情報交換を行い、市民活動支援に役立てている。

開催日	概要（＊はオンライン開催）	参加人数
4 月 22 日(金)	平塚市市民活動推進委員会（令和 4 年度第 1 回）@ひらつか市民活動センター	1 名
5 月 12 日(木)	平塚市協働事業審査会　令和 3 年度実施事業報告会@平塚市役所	1 名
6 月 12 日(日)	ひらつか市民活動センター運営　NPO 法人湘南 NPO サポートセンター職員 3 名来館、情報交換	1 名
6 月 17 日(金)	茅ヶ崎ボランティア連絡会・茅ヶ崎市社会福祉協議会主催　ボランティア大学@市民文化会館 「市民活動分野の紹介」	1 名
6 月 19 日(日)	神奈川の中間支援情報交流会＊	1 名
6 月 30 日(木)	平塚市協働事業審査会　令和 5 年度実施事業新規提案審査会@平塚市役所	1 名
7 月 15 日(金)	平塚市市民活動推進委員会（令和 4 年度第 2 回）@ひらつか市民活動センター	1 名
8 月 8 日(月)	資産経営課職員 2 名来館、市役所駅前広場利活用トライアル・サウンディングについて意見交換	5 名
8 月 25 日(木)	平塚市協働事業審査会　令和 4 年度実施事業中間ヒアリング、令和 5 年度実施事業事前ヒアリング@平塚市役所	1 名
9 月 15 日(木)	ボランタリー活動支援施設 CEO ミーティング＊	2 名
10 月 6 日(木)	平塚市協働事業審査会　令和 5 年度実施提案型協働事業公開プレゼンテーション＆審査会@平塚市役所	1 名
11 月 11 日(金)	平塚市市民活動推進委員会（令和 4 年度第 3 回）@ひらつか市民活動センター	1 名
11 月 27 日(日)	ひらつか市民活動センターまつり見学	3 名
1 月 12 日(木)	さいたま市市民活動サポートセンター指定管理者　公益財団法人さいたま市文化振興事業団　職員 2 名　視察受入	4 名
2 月 12 日(日)	さがみはら市民活動サポートセンター20 周年記念イベント@相模原市産業会館	2 名
2 月 20 日(月)	明治大学大学院生 3 名　視察受入	1 名
3 月 4 日(土)	令和 5 年度大和市市民活動推進補助金公開プレゼンテーション＆評価＊	1 名
3 月 14 日(火)	茅ヶ崎市社会福祉協議会ボランティアセンター令和 4 年度運営委員会	1 名

ウ　企業の社会貢献活動の仲介

(ア) 明治のお菓子

2013 年度より毎年クリスマスの時期に、明治ホールディングス(株)及び同社株主より、社会貢献活動の一環として明治グループの製品(お菓子)の寄贈の申し出があり、障がいのある子どもを対象にした活動や東日本大震災の影響を受けている子どもたちの支援をしている団体への寄贈を仲介している。今年度は、こども支援の 2 団体(認定NPO法人トムトム「あいあいクラブ」とちがさき開智舎)他 11 団体の子どもたちとも分かち合った。

(イ) たのくんからの贈り物

通信販売事業「たのめーる」のパッケージ破損などで戻し入れになった商品や季節商品などをNPO団体や福祉施設に寄贈する社会貢献プログラム。今年度も(株)大塚商会より申し出があり、文房具類は子ども支援団体に、トイレットペーパーなどの消耗品は福祉施設に仲介した。

(ウ) ふらっとパル茅ヶ崎からの提供物品

ふらっとパル茅ヶ崎は、生活協同組合パルシステム神奈川が NPO 法人セカンドリーグ神奈川に運営を委託している交流スペース。災害備蓄食品やアルコールハンドジェルを市内のこども支援団体や民生委員に仲介した。

エ　サポセン開設 20 周年記念事業

ロゴを制作して年間通して開設 20 周年をアピールした。花壇掲示板には、高校生・大学生ボランティア制作のアート作品を展示。主催事業においては、第 4 回 SDGs カフェを記念事業とし、ニューズレター特集記事の中で、「ガイドブック」「おまつり/交流イベント」「カフェ」の 20 年を振り返った。さらに、以下の企画を実施した。

①「つながり」アンケート

20 周年記念事業の一つとして館内展示プロジェクトでは、「こどたん＋2023」の事業と連携してアンケートを実施した。集計結果は「こどたん＋2023」特設ページ、サポセン HP、ニューズレターVol.87 で報告をした。どの世代にも共通しているのは、相手への「思いやり」、相手を思う「心」、「笑顔」だった。アンケートの結果からは、これからの施設運営や今後実施する自主事業の企画に関わるヒントを得た。

内容:「あなたにとって誰かと“つながる”のに、必要なコト・モノ・要素は何ですか？」
調査対象:来館者、主催事業の参加者(ユースボランティア茅ヶ崎、ボランティア塾ほか)
実施期間:2023 年 1 月 19 日～3 月 12 日、夏と秋
回答数:合計　443　(内訳:277(館内 273、Web4 回答)、主催事業 166)

②市民活動パネル展

データベース登録団体に参加を募り、29 団体が参加。サポセンパネルと併せて 30 点を展示した。「こどたん+2023」開催期間中 3/6～3/12 はサポセンにて、3/14～3/22 は茅ヶ崎市役所 1 階市民ふれあいプラザにて開催した。日頃の活動やイベント告知、会員募集のメッセージ等、各団体趣向を凝らしていて見ごたえがあった。

③記念動画制作

サポセン 20 年間の歴史をパワーポイントで作成したあと YouTube 動画に変換し、それを団体投稿動画とともに、「こどたん＋2023」サポセン会場でモニター配信。2002 年のオープニングフェスタから始まり、20 年間の主な出来事年表、ガイドブック・ニューズレターの歴史、過去の思い出に残るイベント、講座・交流会・カフェ、各種ボランティア、イザ！カエルキャラバン、ワイワイまつり・こどたん、エコ推進、花壇の草花の紹介などの内容を動画で配信した。

茅ヶ崎市民活動サポートセンターの指定管理者（5 期目）となり、センターの管理運営と合わせて、以下記載のとおり法人の様々な事業を展開した。

２．コミュニティ形成を支援する事業

(1) まちスポ×さぽちが連携事業

NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎と、当法人からなる会議体「まちスポ×さぽちが連携会議」は行えなかったが、全国まちスポ交流会にてこどもファンドを紹介できた。

(2)おでかけワゴン支援事業

おでかけワゴンは「地域で支える暮らしの足」として頼りにされ、週 2 日（火・金）の定期運行は満員になることも多い。湘南地区まちぢから協議会と、社会福祉法人翔の会、大和リース株式会社、茅ヶ崎市社会福祉協議会、認定 NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎、神奈川県、茅ヶ崎市、当法人とのゆるやかな協力体制により実施された。

・組織運営：準備会（隔月第 2 月曜日）・実行委員会（隔月第 3 土曜日）に出席

・運行記録：おでかけワゴン利用実態を記録するために伴走して写真撮影など

運行状況⇒感染症予防のため予約制で運行

定期運行：毎週火曜日（ベルパーク⇔BRANCH 茅ヶ崎 2 まで 2 往路）

マンション便：第 2、第 4 土曜日（グランバーグ&エクシード ⇔ BRANCH 茅ヶ崎 2 直通 1 往復）

(3) 余暇支援ネットワーク

今年度は実施しなかった

３． 協働によるまちづくり推進事業

(1)企業と NPO のマッチング

コロナ禍で受けた一連の社会的影響から地域コミュニティが持つ様々な活力、人材が交差することによる新たな次世代への手がかりを模索し、従来行ってきたヒアリング、意見交換を行った。

蓄積してきたネットワークのブラッシュアップと勉強会を行った。

(2)食から未来へ勉強会

国の国策にふれ、地域コミュニティを考える。企業と NPO のマッチングプロジェクトの一環として、みどりの食料システム戦略の分野横断的な取り組みとして開催した。

・7 月 28 日（金） テーマ『みどりの食料システム戦略』

(3)SDGsネットーワーク事業

SDGs カフェと連動し、SDGs の推進をテーマにした講演とグループワークを実施し、行政、市民活動団体等、異分野で活動する人材の顔の見えるネットワークづくりを推進した。

・8 月 20 日（土）講演会：白井宏氏（市福祉政策課職員）

テーマ：茅ヶ崎市の福祉政策を学ぶ～重層的支援体制整備事業を中心に～

・グループワーク：参加者 18 名が 4 グループに分かれて情報交換を行った。

４． 市民活動に関する調査研究事業

今年度は実施しなかった。

5. こどもの主体的な活動を支援する事業

「ちがさき・さむかわこどもファンド」の初年度は予想を超える多彩な応募があり、こどものまちをよくしていく発想と提案から大人（NPO・行政・事業者等）との連携・協力が生まれている。また、若い世代の協力者ともつながり「共感」と「信頼」の輪が広がった。

茅ヶ崎市の後援事業として、茅ヶ崎市総合計画の政策目標 1「子がどもが希望を持って健やかに成長し、次代を担うひとが育つまち」①自分にはよいところがあると思う児童の割合（小６）の向上に寄与した。

４月～７月　事業の周知・広報活動（ルビ付きチラシ・応募のしおり

７月「公開審査会」9 グループのこどものプレゼンをこども審査員が審査して 8 グループに助成決定。

伴走支援を開始（活動に同行、市役所との調整の場への同席など）ファンド通信第 1 号に掲載

8 月～2 月 こども審査員と茅ヶ崎市長を表敬訪問、審査会の映像上映（市役所-BRANCH 茅ヶ崎他）

3 月「活動発表会」活動の成果を発表・交流。ファンド通信第 2 号に掲載

メディア掲載 12 件：＃ちがすき(1)、朝日新聞(3)、読売新聞(1)、神奈川新聞(2)、タウンニュース(7)

6.その他この法人の目的を達成するために必要な事業

今年度は実施しなかった。

7. 行政･他機関への委員会委嘱等の協力 ［事務局］

派遣等

茅ヶ崎市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会（年 1 回）
茅ヶ崎市行政改革推進委員会（年 3 回）
社会福祉法人翔の会理事会 （年 3 回）
社会福祉法人翔の会運営会議（年 1 回）
茅ヶ崎市地域コミュニティ審議会(2 回)
茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 第 1 層協議体 （年1回）
神奈川県指定特定非営利活動法人審査会(年 7 回)
ちがさき･さむかわこどもファンドを事例発表＠全国まちスポ交流会 in 茅ヶ崎　1 月 24 日
草の根ロビイング勉強会～「地域でのこども若者の活動支援～にこども審査員とパネラー参加　10 月 8 日
県内中間支援の情報交換会(ZOOM)にて話題提供「こどもファンドの活動紹介」 12 月 24 日

他セクター等との連携等

茅ヶ崎商工会議所　新春賀詞交歓会　 1 月 6 日(金)
公益社団法人茅ヶ崎青年会議所　新年式典　1 月 12 日(木)

後援･協賛等

今年度はなし。

その他

(1)会員向け情報紙「ハーモニー」の発行

A4判、単色印刷、年4回(6月、10月、1月、3月)の発行

38号:通常総会報告、2022年度事業計画、委任事業のこどたん+プラスと自主事業ちがささむかわこどもファンド

39号:「ちがさき・さむかわこどもファンド」公開審査会、「こどもファンド」を立ち上げて思うこと、NPO×企業マッチング「農林水産省みどりの食料システム戦略」勉強会

40号:代表理事・役員の年頭挨拶、第1回SDGsネットワーク事業「みんなで創る共生社会」多様なアクターの連携で、まちを元気に!、全体会開催(こどたん+プラス、さぽちがHPリニューアル、こどもファンド)

41号:「ちがささき・むかわこどもファンド」活動発表会

(2)仲間づくり部活動@RIVENDEL・全体会

RIVENDEL を利用し、参加者相互の親睦を深めてきたが、コロナウイルス感染予防対策のため活動できなかった。

第 1 回全体会:ちがさき・さむかわこどもファンドと役員改選について

日時:11 月 19 日(土) 15:00～16:00

場所:茅ヶ崎市民活動サポートセンター及び ZOOM

(3)情報発信・HP更新

1.NPOサポートちがさきHP(https://sapochiga-mirai.com/) の更新・編集

4月から8月末にかけてセカンドワーク協会とも会議、作業を行いさぽちがHPをリニューアルした。

※4/5、4/12、4/25、6/3、6/29、7/27、8/20、8/24、8/30、9/13(10回)

ちがささきさむかわこどもファンド新設

ちがさき・さむかわ こどもファンド | NPOサポートちがさき (sapochiga-mirai.com))

2.NPOサポートちがさき開催事業の報告をタイムリーに掲載

3.ハーモニー会員情報誌掲載

法 人 運 営

1. 通常総会 2022 年度定期総会

日 時: 令和 4 年(2022 年) 5 月 18 日 (水) 15:00～16:30

会 場: 茅ヶ崎市民活動サポートセンターおよび ZOOM によるオンライン会議

出席者数: 出席者 14 名 委任状 12 名、WEB 表決者 3 名 合計 29 名(正会員総数 41 名、過半数が出席)

議 事: 第 1 号議案 令和 3 年度(2021 年度)事業報告の承認

第 2 号議案 令和 3 年度(2021 年度)収支決算の承認

第 3 号議案 令和 4 年度(2022 年度)活動計画の基本方針及び事業計画の審議・決定

第 4 号議案 令和 4 年度(2022 年度)収支予算の審議・決定

第 5 号議案 役員の改選

全ての議案は原案通り、全会一致で可決承認された。

2. 理事会

第 1 回　4 月 13 日(水)　定期総会の開催にむけて事業計画、予算書

第 2 回　5 月 11 日(水) 2021 年度決算及び 2022 年度事業計画、予算書について

第 3 回　5 月 21 日(土) 代表理事、常務理事の互選

第 4 回　7 月 22 日(月)　定款変更とこどもファンド事業について

第 5 回　9 月 22 日(木)　運営会議規程について、役員の選出方法

第 6 回　11 月 18 日(金)　上期の各事業進捗状況と全体会について

第 7 回　1 月 27 日(金)　役員選挙について

第 8 回　3 月 24 日(金)　2022 年度事業、2023 年度事業計画、次年度役員体制

3. 運営会議

毎月1回開催　以下の内容を検討した

・運営会議規程

運営会議の構成員と会員への周知について

・役員体制

・理事会との役割分担

以上